

JBUS

JBUS ENVIRONMENTAL REPORT

ジェイ・バス株式会社
環境報告書 2004

ジェイ・バス株式会社 環境報告書 2004

CONTENTS

報告対象期間 報告対象

会社概要

1 所長挨拶

2 環境指針

宇都宮事業所	環境方針
小松事業所	環境方針
両事業所	ISO14001取組みの経過

4 製品紹介

一般製品 環境配慮製品
2003年8月VPセンター開設
環境配慮設計

5 環境マネジメントシステムの状況

宇都宮事業所	2003年度実績 2004年度目標
小松事業所	2004年度目標

教育・訓練

8 環境関連設備

9 コミュニケーション

見学者の受入
例年、7月に行なわれる『納涼祭』
地域の農業組合の工場見学の受入（小松事業所）
周辺地域のゴミ拾い

10 環境に係わる法規制遵守状況

PRTR法への取組み
その他法規制について

11 環境負荷低減の取組

宇都宮事業所	温室効果ガスの排出量及び廃棄物
小松事業所	地球温暖化防止策の推進 廃棄物の削減 環境負荷の監視・測定

13 グリーン調達・環境会計

【報告対象期間】

基本的に2003年度を対象にしておりますが、活動についてはジェイ・バス統合にあたり、2004年9月までのものを記載しています。また、必要に応じてデータはそれ以前のものから利用しています。

【報告対象範囲】

ジェイ・バス株式会社 小松事業所並びに宇都宮事業所の、国内における環境への取り組みについて取りまとめています。

【作成部署】

作成及び社外との窓口を総務部 安全環境グループが担当しております。



小松事業所
敷地面積 201,883m²
建築面積 56,337m²



会社概要

商号	ジェイ・バス株式会社
事業所所在地	(本社、小松事業所) 石川県小松市串町工業団地30番地 TEL: 0761-44-8610 (宇都宮事業所) 栃木県河内郡河内町中岡本2857番地の2 TEL: 028-673-6060
設立	2004年10月1日
資本金	19億円
従業員数	1370人(2004年10月1日現在) (宇都宮 600名 小松 770名)
主な事業内容	大型・中型・小型バス(観光・路線・自家用)の生産
売上高	181億円(宇都宮) 346億円(小松) (2003年4月~2004年3月)

日野車体工業株式会社

1908年
脇田兼太郎個人経営で東京芝浦において自動車車体製作を創業(帝国自動車工業前身)

1945年
金沢航空工業株式会社設立(金産自動車工業前身)

1975年
両者合併、日野車体工業株式会社に社名変更

2002年
本社工場を小松市に移転

いすゞバス製造株式会社

1948年
大型バス製造開始(現・川崎重工業株式会社)

1986年
「アイ・ケイ・コーチ株式会社」創立
いすゞ自動車株式会社
川崎重工業株式会社

1995年
「いすゞバス製造株式会社」に社名変更

ジェイ・バス株式会社

2003年
持株会社として創立



ジェイ・バス株式会社

2004年
3社が統合して、新生「ジェイ・バス株式会社」となる



宇都宮事業所
敷地面積 111,855m²
建築面積 44,775m²

ごあいさつ



ジェイ・バス株式会社
代表取締役社長
中 根 忠 義

この度、ジェイ・バス株式会社として初めての環境報告書を発行いたしましたことになりました。既に御承知のように、弊社は日野車体工業といすゞバス製造が、統合会社ジェイ・バスに本年10月合体して発足いたしましたバスボディーメーカーであります。

この統合は生産の合理化及び調達の効率化を推進し、品質向上、コスト低減を図る目的であります。近い将来には、バスボディーの開発機能をも備え、開発から調達、生産を一貫して手がけ、より競争力のある企業を目指すものであります。

さて、地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっております。バスもまた環境負荷を与える存在であります。一方、その改善にも役立てる存在であるとの認識のもとに、全社を挙げて環境に取り組んでおります。

弊社では、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階において、仕入先等の関係者とも協力して、長期的視点に立って環境保全のための対策を推進いたしております。

また、豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全活動を行なっていきます。地域活動に積極的にかかわると共に、社会に開かれた企業でありたいと望んでおります。

弊社の構成は 宇都宮事業所と小松事業所の2製造拠点と東京本部の二事業所一本部制とし、事業活動を展開しております。両事業所は合併前、既にISO14000を取得し、環境マネジメントシステムを構築、運営いたしておりましたが、今後は一層充実した運営を推進いたす所存でございます。

ここに、微力ではありますが、昨年からの両事業所の環境にかかわる活動状況をご紹介します。皆様のご理解をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。



宇都宮事業所
専務取締役
所長

滝 沢 聡

当事業所は、昨年8月ISO14001を取得し、早一年が過ぎました。昨年の取得に向けた緊張感を維持、継続出来るかがこの一年間の課題と認識し、月例の環境管理委員会で叱咤激励し、なんとか定常の業務として環境マネジメントのPDCAが回転できるようになったと思います。

取得直後の内部監査で、末端までの認知度、教育不足に問題を把握し、是正改善を行った結果、今年7月の継続審査では数件の観察事項の指摘で、合格致しました。

今年度の重点課題としては、廃棄物の削減、省エネルギーを積極的に推進し、環境会計の導入を目指したこと、人材育成に投資しました。結果としてまだまだ不十分な点はありましたが、一様の結果は出せたと思います。

今年度のトピックスとしては、当事業所内の土壌汚染の対応でした。ジェイ・バス移行に向け土地の評価の為、土壌調査を行った結果、有害物質が検出され、早速浄化を行いました。特に揮発性有機化合物については、地域への流出が無い様に揚水揮散装置を常時稼働させ、毎月モニタリングを実施しています。地域の方々は安心して井戸水を使用して頂きたいと思っております。

今後の課題は、廃棄物のゼロ化（ゼロエミッション）に向け、さらなる努力と投資をかけたいと思っております。一方地域社会とのコミュニケーションをさらに図り、地域環境の保護活動に積極的に参画したいと思っております。



小松事業所
専務取締役
所長

原 政 芳

環境問題に対するジェイ・バス小松事業所の取組みを「環境報告書」という形で初めて皆様にご報告致します。

当事業所は、2002年10月より稼働を始めた新しい事業所です。2004年9月にISO14001の認証を取得致しました。

2003年度に「地球環境憲章」とそれを実行するための「地球環境行動計画」制定し、地球環境の保全を推進してまいりました。

又、当社の製品であるバスボデーの製造事業は環境に直接影響するとの認識に基づき、自動車製造業界の一員としてこの環境問題をクリアーし、地球環境の保全活動を確実に実行するための手段として、環境マネジメントシステムの導入を決定致しました。

地球温暖化防止策の推進、廃棄物の削減といった、当事業所が抱える各種の環境問題の解決に、環境マネジメントシステムが役立つと考えています。環境問題以外でも、仕事を行う上で発生する諸問題を解決し事業活動の推進に実効を上げるに役立つと思っています。

環境マネジメントシステム構築段階において必要な経営資源の投入も行いました。

ソフト面では、ISO事務局要員として5名を指名し、ISO14001の教育を受けさせました。ハード面では、廃棄物集積場、油水分離槽、排水設備等の改善を行いました。

当事業所は最初に述べた様に、ISO14001の認証を取得したばかりで、地球環境の保全活動のスタート地点に立ったところです。従業員の全員参加はもちろんのこと、地域住民、関連する各位殿とのコミュニケーションを通じて、環境マネジメントシステムを発展させていく所存であります。

環境指針

環境負荷低減活動を実施していくための仕組み<環境マネジメントシステム>を運用するために、環境方針を定め、ISO14001の真髄ともいえる継続的改善『PDCAサイクル』を維持していくことにより、環境負荷低減活動に取り組んでいきます。

宇都宮事業所

環境方針

環境方針

当事業所は、地球環境保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、環境にやさしく地域に調和できる工場づくりと、社会を豊にするパス造りを目指し、全員参加で環境活動を行う。

推進項目

1

環境関連法規・協定等を遵守し、地球環境への汚染防止に努める。

2

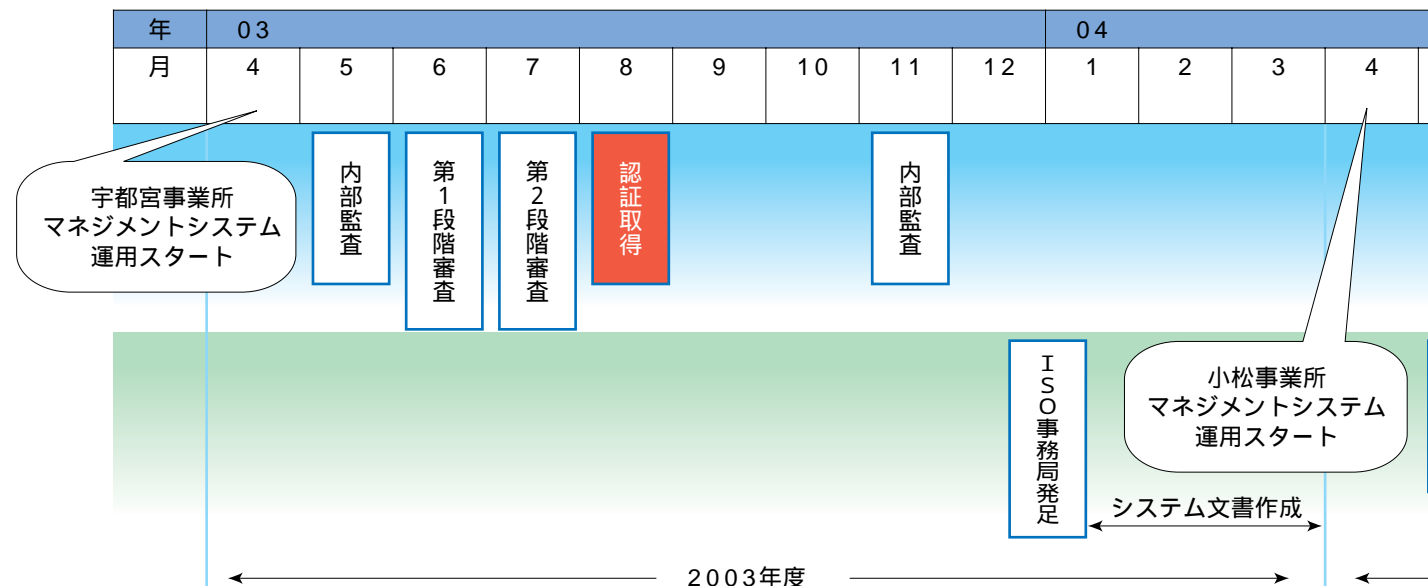
廃棄物削減・省エネルギー等、環境負荷低減の目的・目標を定め、継続的に改善し、定期的に見直す。

3

地域社会とのコミュニケーションを図り、地域における環境保護活動に積極的に協力する。

ISO14001取組みの経過

両事業所におけるISO14001認証取得及び継続審査までの経過を以下に示します。毎月1回の「環境管理委員会」においてマネジメントシステムの進捗状況の確認や問題点などの審議・決定を行っています。



環境方針

環境方針

1. 地球環境との調和

きれいな地球環境を守るため、自然と人に調和したバスの製造及び製品サービスの事業活動を展開し、環境への影響を常に認識し、地球にやさしいバスづくりを目指します。

2. 環境汚染の未然防止と継続的改善

環境を守る組織と仕組みを作り、環境汚染の未然防止と環境影響を少なくする改善を続けます。

3. 法規等の遵守

国の法律、自治体の条例や、私たちが守ると決めた環境に関する要求事項を守ります。

4. 省資源・省エネルギー

廃棄物・排出物の削減、省資源・省エネルギー活動を推進し、有害物質から自然を守り、資源とエネルギーの有効活用に取り組みます。

5. 環境保全活動への全員参加

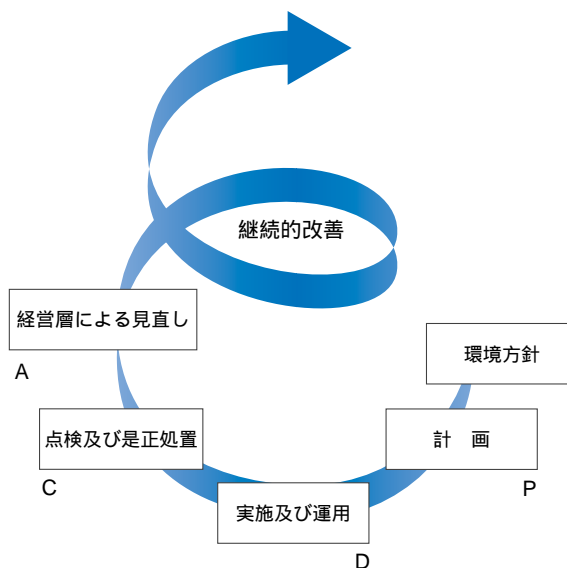
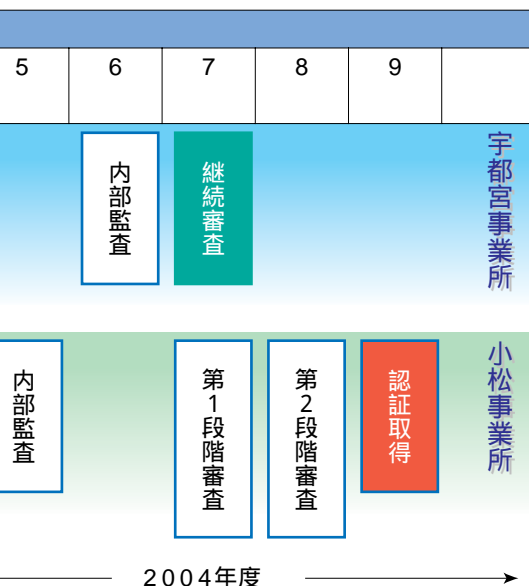
全従業員に環境方針を周知し、一人ひとりが自覚と責任を持って、環境保全活動に参加します。

6. 地域社会とのコミュニケーション

地域社会とのコミュニケーションを通じて、地域との環境保全に取り組みます。

継続的改善

小松・宇都宮事業所



P：環境側面・法的要求事項を抽出し自ら決めた「目的・目標」を達成するための計画表を作成し

D：計画通りの運用、手順書通りの実施文書管理、緊急時の対応 確実に実行

C：定期的な点検、内部監査によりシステムの確認、是正を経て

A：社長による見直しを行い、システム全体の改善を実施する。

製品紹介

一般製品

大型観光バス 大型路線バス
中型貸切・送迎バス 小型貸切・送迎バス



大型観光バス



大型路線バス



中型貸切送迎バス



中型路線バス



小型路線バス

環境配慮製品

CNGバス

天然ガスを燃料としています。天然ガスは軽油と比べ、CO₂の発熱量が約半分と、地球環境にやさしいバスです。しかも、ノンステップ仕様で、利用するお客様にもやさしい製品です。

燃料電池バス

水素ガスを燃料としています。「CO₂による地球の温暖化」「化石燃料の消費」これらの地球環境問題に対応して、開発を行っています。



CNGバス

2003年8月VPセンター開設（宇都宮事業所）



より多くの方にノンステップバスやワンステップバスを利用していただけるように、低価格化を目指し、受注仕様の統合化を強力に推進していくためVPセンターを開設しました。VPの標準仕様、厳選したオプションを理解していただき、更なる標準化の推進と、お客様の声を聞きながらVPの仕様を進化させて行く活動を継続していきます。



環境配慮設計

両事業所の設計部では、環境負荷低減の製品開発を推進しています。

1 P R T R 法指定物質の低減

P R T R 法で使用量の報告が義務付けられている化学物質を減らすため、開発・設計段階から対象物質が少なくなる様に努力しています。

（宇都宮事業所では規制 4 物質の低減について活動中）

2 省資源

車体の軽量化、部品の共通化等を推進し、使用する材料を少なくし、地球の資源枯渇防止につながる、開発・設計に努力しています。

3 解体性の容易化

バスもお客様が長年使用した後には廃却されゴミとなります。その時に各部品が再利用され、資源となる様、解体性の向上に取り組んでいます。



環境マネジメントシステムの状況

宇都宮事業所

2003年度実績

環境マネジメントシステムの運用開始から1年目の結果を以下に示します。

目的	目標(単年度)	方法	目標/実績
廃棄物の削減	コピー費 5%減	ネットワーク活用, コピー枚数の削減 (コピー費 千円 累計)	目標 14,297 実績 13,827
	ゴミ分別の徹底	手順書作成(ガイドライン)、運用、実施状況の監視	徹底完了
	特定10項目の資材費の低減 5400千円	現状を把握し改善実施による購入費削減	目標 5,400 実績 10,312
省エネルギー	電力使用量 3%削減	削減方法の策定 手順書作成 運用	目標 4,810,000 実績 4,652,400
	A重油使用量 3%削減	削減方法の策定 手順書作成 運用	目標 245,000 実績 284,195
	LPG使用量2%削減	削減方法の策定 手順書作成 運用	目標 386,000 実績 358,679
グリーン調達	ガイドライン作成 目標値の設定	協力企業へのISO14001取得調査	完了
在庫管理	有償譲渡部品在庫管理点数 現状 1,240点 700点	在庫削減対象品の選定 在庫管理手順の作成	目標 700 実績 546
	余剰品引当2002年度実績 18,000千円の80%引当	現状、把握余剰品引当手順書の作成	目標 13,075 実績 17,933
	基準部品 在庫金額低減	基準部品の使用状況を把握、特性に合わせた取得区分変更やシステム改善	目標 70,000 実績 35,540
環境配慮設計	【リサイクル設計】	マニュアル作成	作成
	【有害物質の削減】	使用規制物質選定 代替品検討/使用実態調査 解体マニュアル作成 運用手順書作成	作成

2004年度目標

2004年度の目標は、新たに「人材育成」や「環境会計」を取り入れています。
これはより一層の環境に対する認識向上や専門資格取得者の増員を図るというものです。
なお、「環境会計」については13ページをご覧ください。

目的	目標
廃棄物削減	コピー費5%減(初年度比10%減)
	ゼロエミ リサイクル率83% 88%
	特定10項目の資材費低減 13,167千円
省エネルギー	電力使用量3%削減(過去3年平均値比)
	A重油使用量2%削減(")
	LPG使用量2%削減(")
グリーン調達	協力企業でのマネジメントシステム構築 グリーン購入
在庫管理	有償譲渡部品 在庫管理点数、上期550点以下、下期600点以下
	床材余剰品本数低減 上期 10%/03年度期末 下期 20%/03年度期末
	基準部品低減 04・3月末在庫に対し、05・3月まで5,000千円削減
	Z部品低減 04・3月末在庫に対し、05・3月まで5,000千円削減
環境配慮設計	【リサイクル設計】リサイクル設計手順書
	【有害物質の削減】ISZ法規制物質戦略
人材育成	環境管理教育の実施・フォロー 法的資格保有者の養成 特定業務従事者の能力向上
環境会計	チェックマニュアル作成
	上期構築、下期評価実施

環境マネジメントシステムの状況

小松事業所

2004年度目標

小松事業所はマネジメントシステム1年目の取組となります。

	環境目標	環境目標	目標値
法規制物質濃度・排出量の遵守	環境関連法令・条例の遵守	1. 排水濃度の法基準（自主基準含む）遵守	自主基準値 オーバー0件
	総合排水(生産系・生活系)の排水濃度の安定化	2. 騒音値の法基準（自主基準含む）遵守	クレーム0件
著しい環境側面	環境重要施設の改善	管理の手順評価点の低減 物的防止（環境影響を阻止する物的防止対策）	2点以下 法規制値オーバー0件
生産環境部会	地球温暖化防止策の推進	1. CO ₂ 排出量の削減 省エネ、省資源	CO ₂ 原単位 前年度比1%減 (0.038ton-co ₂ /台)
	廃棄物の削減 (ゼロエミッション含む)	1. 現状把握と削減計画作成及実施	前年度比 2%/台 実施率 100%
	物流改善による廃棄物の削減	1. 現状把握と削減計画作成及実施	前年度比 2%/台
	化学物質の管理 (法の遵守を含む)	1. 現状把握と削減計画作成及実施	実施率 100% 前年度比 2%/台
製品環境部会	製品環境面からの環境保全	1. 部会開催	実施率 100%
	製品環境の知識習得 環境負荷物質の削減	2. 勉強会による設計部員の教育 3. 禁止物質・有害物質の削減 1) 6価クロムフリー化 2) シール材・接着剤の削減	実施率 100% 1. 使用塗料の全廃 2 使用ビスのリスト作成 1. 対象物特定 2. 代替品に変更 (04年2月)
	リサイクルの推進	4. 複合材削減及び軽量化・解体性簡易化によるリサイクル性向上 1) シュレッダーダスト・廃棄物削減 2) ボデー軽量化 3) 解体性容易化	1. 新規開発車への盛り込み
教育・訓練	ISO14001関連教育	1. 定期的な教育実施	実施率100% 実施率100%
	法定有資格者の育成	1. 有資格者不足の解消	不足0人
地域社会とコミュニケーション	工場周囲の緑化推進	1. 造園による工場周囲の快適性向上	144m ² (0.15m ² /人)
	地域社会の環境ボランティア活動	1. 事業所周囲の道路のゴミ拾い	実施率100%
情報開示	ホームページに情報掲載	1. ISO14001活動状況の公開	一般公開

教育・訓練

社内教育の実施

内部監査員教育をはじめ、各階層に応じた教育活動を実施しています。



年間では以下のような教育・訓練を計画しています。

- 内部監査員教育
- 新入・転入者（随時）
- 廃棄物分別
- 化学物質取扱
- 排水・汚水設備運転
- ボイラー・コンプレッサー運転訓練
- フロンガス充填
- 緊急流出対応手順テスト
- LPG設備緊急対応訓練・テスト
- 排水処理緊急対応訓練・テスト
- 汚水処理緊急対応訓練・テスト
- 火災対応



内部監査の実施

内部環境監査では、監査員が単に不適合を指摘するだけでなく被監査部署の環境管理者と、不適合発生原因の追究を行い再発防止と、EMSの管理レベルの向上を図っています。



緊急時対応

事故・災害などの緊急事態に備え、各職場に応じた訓練・テストを実施しています。



環境関連設備

環境に関わる設備として、排水・污水处理場 水質、コンプレッサー・プレス等 騒音/振動、塗装設備 悪臭 等が挙げられます。
(それぞれの設備とも基準値を下回っています)

宇都宮事業所

小松事業所

水質



【排水処理場】
生産排水系（主に、塗装設備、電着設備からの排水）の水を処理しています。

処理方式：加圧浮上式
処理量 100t/日
(処理能力 240t/日)

処理方式：沈殿方式
処理量 140t/日
(処理能力 160t/日)



【污水处理場】
生産排水系（主に、水洗トイレ、食堂からの排水）の水を処理しています。

処理方式：活性汚泥方式
処理量 15t/日
(処理能力 80t/日)

処理方式：沈殿方式
処理量 20t/日
(処理能力 100t/日)



騒音/振動

【プレス】



鋼材の切断・折曲げ・穴あけ等を行っています。

騒音・振動の主な発生源は、プレスや工場へ作業用アエアを供給するコンプレッサー、及び給排気ファンです。
工場周辺地域への影響を配慮するとともに、定期的な測定を実施しています。



【コンプレッサー】



【塗装ブースの給排気ファン】

【コンプレッサー】



大気その他

【排気設備】



排気設備として、塗装工場、暖房、乾燥炉等がありますが、排出化学物質量は微量です。
その他に、LNGプラント、廃棄物集積場等があります。



【廃棄物集積場】

【LNGプラント】



コミュニケーション

見学者の受入

小松、宇都宮両事業所とも工場内見学は随時行なわれており、2003年は両事業所合わせると一万人近い見学者をお迎えしています。



例年、7月に行なわれる『納涼祭』(宇都宮事業所)

構内を開放した夏祭り。近隣住民とのコミュニケーションに一役買っています。



地域の農業組合の工場見学の受入(小松事業所)

近隣の農業組合の、当事業所への要望事項について、話し合を行っています。



油水分離槽
農業用水路への排水濃度を監視・測定

周辺地域のゴミ拾い



地域の河川清掃活動に参加

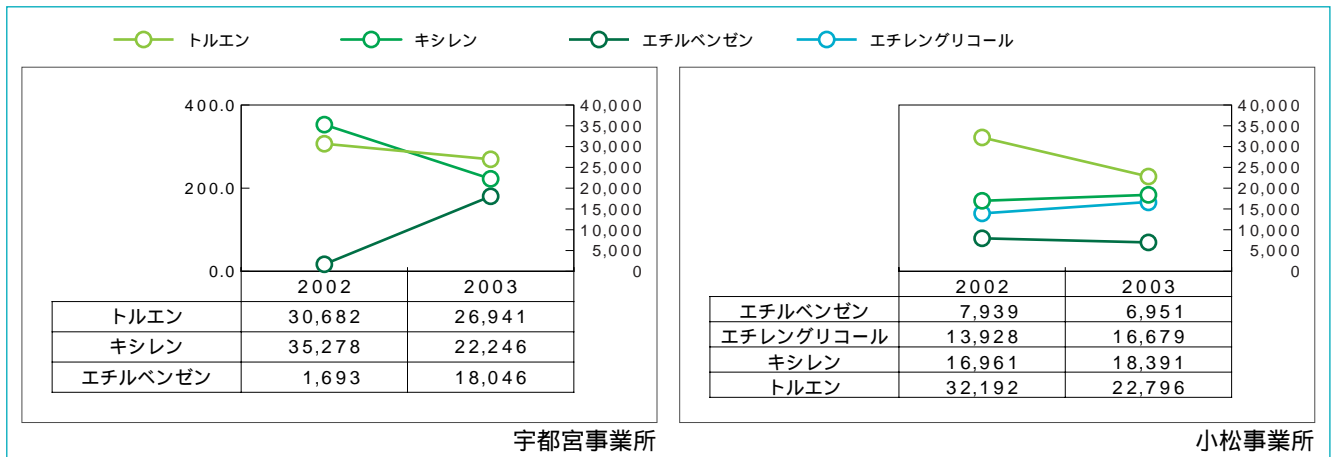
環境に係わる法規制遵守状況

PRTR法への取組み

両事業所とも塗装工程や接着剤、シーラー等に含まれる化学物質の管理は「化学物質管理規定」や「安全衛生管理規定」又は、「化学物質管理手順」「化学物質管理システム運用マニュアル」等によって管理されており環境マネジメントシステムの中でも監視項目として取り扱っています。

改善活動としては電着塗装における鉛フリー化から始まり、2003年度は静電塗装の導入やTXフリー材料の使用により塗料の使用量削減を図っています。

PRTR報告については2002年度より届出をしており、以下にその数値を示します。



その他法規制について

水質汚濁防止法	放流水水質測定 放流水水質測定結果報告 特定施設点検(電着工場、排水処理場)	P C B 特別措置法 消防法	PCB保管等の状況の届出 定期点検(地下タンク、漏洩検査) 日常点検(地下タンク) 消防設備点検
浄化槽法	保守点検	高圧ガス保安法	日常点検(LPG、CO ₂) 保安検査(LPG)
騒音・振動規制法/条例	事業所境界騒音・振動測定 特定自主検査(プレス)	土壌汚染対策法	保安検査(CO ₂ 、1/3ヶ年)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 産業廃棄物委託業者	マニフェスト交付、管理 契約書の有効期限確認 許可証の有効期限確認		

これらの法規制については環境マネジメントシステムの中の『法規制遵守評価リスト』により毎月チェックされています。「遵法チェックリスト」に基づき、「環境法規制遵守状況の、定期的な評価」を年2回実施(小松事業所)

土壌汚染について(宇都宮事業所)

2003年11月、翌年の日野車体工業株式会社との合併に際し、自動車株式会社により土壌調査が実施され、環境基準を超える有害物質が検出されました。

翌12月より揚水揮散処理設備を設置、運転を開始しており、今後ジェイ・バス株式会社として処理を継続、モニタリングを実施していきます。

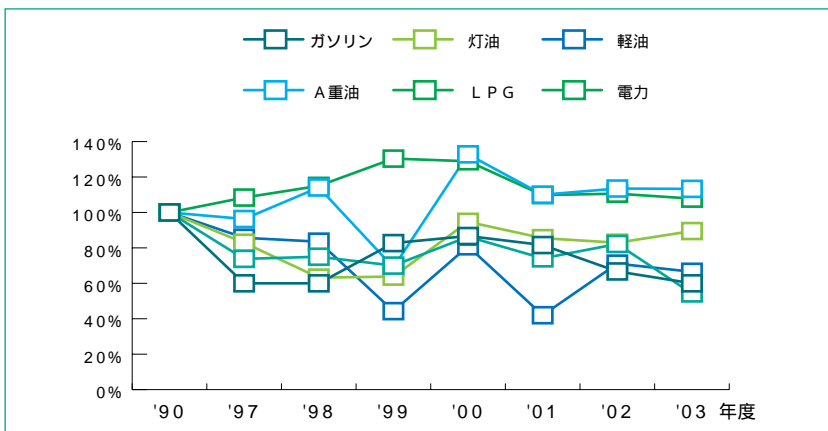
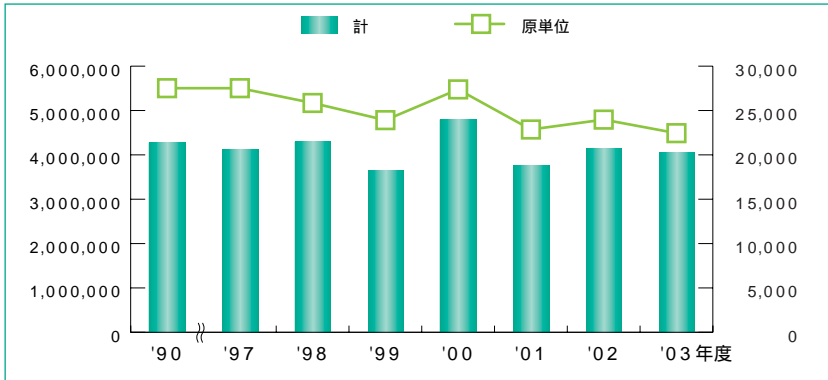
7月、10月の2回にわたり住民説明会を実施、自主的な周辺井戸調査により敷地外への拡散は無いことを確認しています。汚染土壌についても掘削除去により対策は完了しております。

環境負荷低減の取組

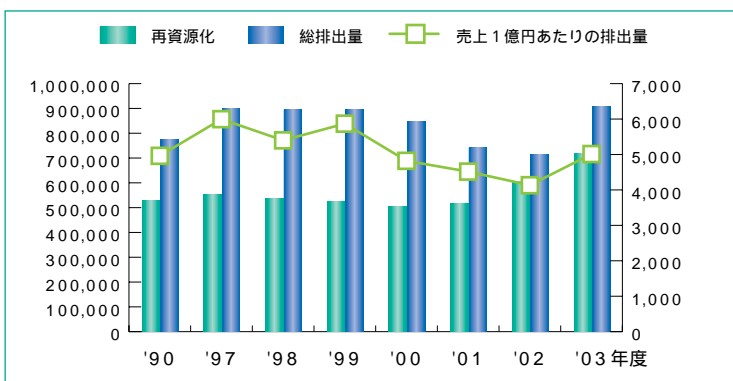
宇都宮事業所

温室効果ガスの排出量及び廃棄物

宇都宮事業所では省エネ活動や3R活動、設備改善等による環境負荷低減を推進しています。生産量変動により電力、LPGでは苦戦しているものの、原単位では減少しています。



使用量の推移



廃棄物発生量と再資源化量の推移

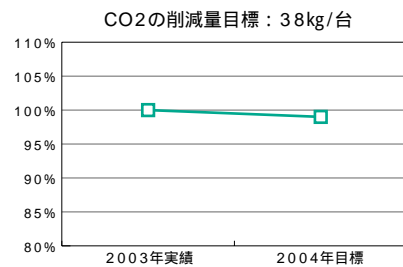
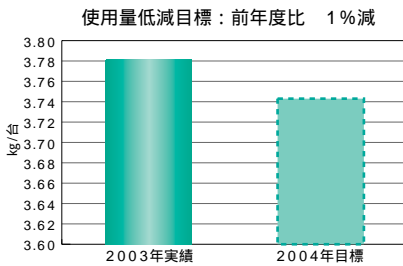


環境負荷低減の取組

小松事業所

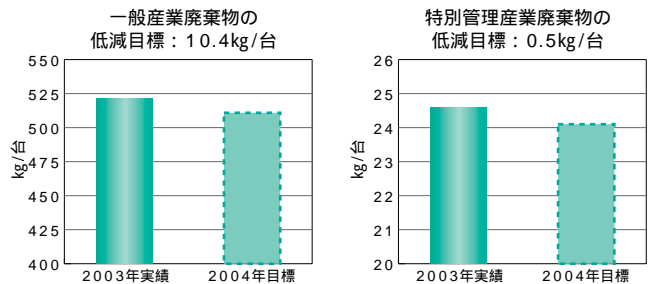
地球温暖化防止策の推進

小松事業所はエネルギーとして、「電気」「LNG（天然ガス）」「ガソリン」「軽油」を使用しています。これらを消費する時発生する、CO₂の低減活動を推進しています。



廃棄物の削減

廃棄物削減対策として、「分別による、ゴミの資源化」「物流で発生する梱包材の低減」を実施しています。



ゴミステーション 分別の徹底を推進

環境負荷の監視・測定

当事業所では、環境負荷の発生する設備に対し、定期的に監視・測定を行っています。

大気汚染の監視・測定

- 1 ボイラー（3基）
- 2 塗装空調設備

(測定項目)	1	2	3
	窒素酸化物	ばいじん	硫酸酸化物

振動の監視・測定

- 1 敷地境界（5ヶ所）

(測定項目)	1	2
	夜間 8時～19時のレベル	夜間 19時～8時のレベル

水質汚染の監視・測定

- 1 総合排水
- 2 油水分離槽

(測定項目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	有機リン	6価クロム	フッ素	硫酸化合物	P	B	S	ヘキサ	フェニール	亜鉛	鉄	マンガン	全クロム	大腸菌	その他

臭気の監視・測定

- 1 工場敷地境界（風下）

(測定項目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	アンモニア	メルカプタン	硫化水素	硫化メチル	二硫化メチル	アルデヒド類	インプタノール	酢酸エチル	ブチルケトン	トルエン	スチレン	キシレン

- 2 排出口（塗装ブース・乾燥炉）

(測定項目)	1	2	3	4	5	6	7
	アルデヒド類	メチルアミン	インプタノール	酢酸エチル	ブチルケトン	トルエン	キシレン

騒音の監視・測定

- 1 敷地境界（5ヶ所）

(測定項目)	1	2	3	4
	8時から19時のレベル	19時から22時のレベル	22時から6時のレベル	6時から8時のレベル

グリーン調達・環境会計

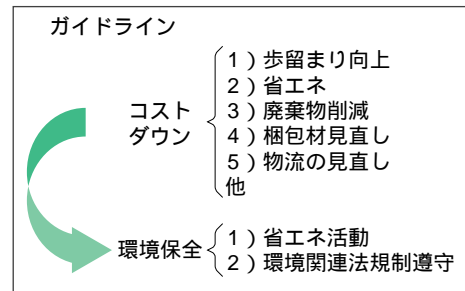
協力企業向けISO14001の認証取得、あるいはそれに準じた管理システムの構築を要請していますが、特に関連の深い企業について特定し、調達部を窓口として環境負荷低減活動を推進しています。各関連企業においては、省エネ等、すでに実施しており、今後はさらに管理および継続的に改善していく仕組み作りをコストダウン等のメリットと合わせ理解を深めていけるよう説明会等を開催しています。宇都宮事業所では、2003年度特定した関連企業をグリーンパートナーと称し、その選定、ガイドラインの作成などが終わり、本年度は各社でのマネジメントプログラム作り着手しています。

宇都宮事業所

2003年活動

目標	目標値の設定
1. 情報収集	ISO14001の知識習得
2. 事例収集	他企業的事例収集
3. ガイドラインの検討	グリーンパートナー選定 依存度30%の協力企業選定

7社



2004年活動

目標	協力企業でのマネジメントシステム構築
1. 協力企業での現状把握	現状調査
2. 協力企業での目標検討	2003年活動内容のガイドラインに沿って検討
3. 協力企業での運用マニュアル作成	環境マネジメントプログラムに沿ったマネプロ作成
5. 協力企業での運用	1回/月確認を行う

宇都宮事業所

環境会計

環境会計は環境に関するコストとその効果を把握し、今後の環境保全活動を効率的に行っていくための重要な指標となります。宇都宮事業所では2004年度より環境会計の導入について活動を開始しました。環境省ガイドラインを参考に可能な範囲での数字の把握と、効果算出、情報開示に向け設備関連部署を中心に活動中です。現段階では全社的なコスト及び効果の算出まで至っていませんが、今年度中は、事業所内での仕組み構築が目標です。

環境保全コスト

1. 事業エリア内コスト	(単位 千円)
内訳	
公害防止コスト	・水質、大気、騒音、振動など公害防止に関すること 10,830
地球環境保全コスト	・地球温暖化防止、オゾン層保護などに関すること 1,670
資源循環コスト	・省資源、廃棄物の削減・リサイクル、購入抑制など 1,000
2. 上・下流コスト	・環境配慮型製品の開発 算定中
	・製品・容器包装等のリサイクルなど 算定中
3. 管理活動コスト	・環境教育、環境情報の開示 250
	・環境マネジメントシステムの運用など 4,230
4. 研究開発コスト	・鉛フリーはんだ実装技術など 算定中
5. 社会活動コスト	・環境保護団体、地域への支援など 520
6. 環境損傷コスト	・土壌汚染修復費など -

環境保全効果

分類	削減量 (単位kg)
CO ₂ 排出量	90,853
管理対象化学物質排出量	0.4
産業廃棄物最終処分量	- 114
水使用量	6,990m ³

環境保全効果

分類	削減量 (単位 千円)
事業場省エネルギー	2,347
廃棄物処理費用の削減	- 2,316
水道費用の削減	2,129

(集計範囲 設備及び総務部門 2003年度)

ジェイ・バス株式会社

環境報告書

2004

JBUS
ENVIRONMENTAL
REPORT